

この例のように、①の段階で学校を任意抽出し、次に②の段階で、この抽出された学校から、最終的に標本となる生徒を任意抽出する、というように、抽出を2段に分けて行う方法を、二段抽出法といいます。

この例は、くわしくは、等確率抽出法による二段抽出法ということになります。

なお、二段抽出法において、①の段階で抽出対象となる個々の集団（この例では学校）を第1次抽出単位、②の段階で抽出対象となる集団の要素（この例では生徒）を第2次抽出単位といいます。

## (2) 確率比例抽出法

① 15の中学校から、4校を抽出することにします。

この場合、4校の抽出は、各学校の生徒数（第1次抽出単位の大きさ）に比例した確率で抽出します。

具体的には、次のようにして抽出します。

中学校	生徒数	累積度数	中学校	生徒数	累積度数
A <sub>1</sub> 中	258	258	A <sub>9</sub> 中	87	1173
A <sub>2</sub> 中	180	438	A <sub>10</sub> 中	72	1245
A <sub>3</sub> 中	156	594	A <sub>11</sub> 中	108	1353
A <sub>4</sub> 中	130	724	A <sub>12</sub> 中	87	1440
A <sub>5</sub> 中	118	842	A <sub>13</sub> 中	52	1492
A <sub>6</sub> 中	82	924	A <sub>14</sub> 中	30	1522
A <sub>7</sub> 中	87	1011	A <sub>15</sub> 中	29	1551
A <sub>8</sub> 中	75	1086			

左の表のように、生徒の累積度数を求めておきます。

抽出間隔は

$$1551 \div 4 \approx 387$$

（実際は387.75ですが、これに最も近くて小さい整数をとります）

乱数表によって、

1 から 387までの数字の中から、1つの数字を選び、これをスタートナンバーとします。これが126であったとしますと、系統的抽出法によって抽出される4つの数字は、次のようになります。

$$126, \quad 126 + 387 = 513, \quad 513 + 387 = 900, \quad 900 + 387 = 1287$$

この4つの番号のある学校、A<sub>1</sub>中（1～258）、A<sub>3</sub>中（439～594）、